「ふね遺産」（応募様式）：A4 一枚に収め、それ以上は別途資料添付して下さい。

2017 年 12 月　日提出　　氏名：川村恭己・平山次清　　所属：横浜国立大学
メールアドレス：kawamura-yasumi-zx@ynu.ac.jp、
hirayama-tsugukiyo-nr@ynu.ac.jp
その他の連絡先：

No.(*)	内容	備考
1. 対象物・資料の名称・所属または所有者	**寶玉丸** **―幕末期の大和型船（弁財船）実物精密模型** （横浜国立大学所有） 幕末期に阪神・東京間を航行した実在の寶玉丸（1500 石積）の 1/32 スケール模型（全長 1.3m、実船換算 42m）。説明板には、寄贈者：大阪佐野安船渠第 3 回卒業生佐野川谷保治氏、製作者：大阪 72 歳翁　天野三吉氏、製作に 3 年を要したとの記載がある。	和船の展示会（船の科学館・横浜マリタイムミュージアムなど）にも貸出実績があるが一般公開はしていない
2. 対象物の作成・存在時期	実物は幕末期に阪神・東京間を航行した宝玉丸であり、模型製作完成は昭和 11 年 1 月。	（製作者による板書＝大和型船実物模型（三十二分ノ一）今ヨリ七十年前阪神東京間ヲ航行シタル寶玉丸（千五百石積）ニシテ製作に三箇年の日子ヲ費シタルモノナリ　　寄贈者大阪佐野安船渠第三回卒業佐野川谷保治氏 製作者大阪七十二歳翁天野三吉氏）
3. 現状（写真添付）	帆柱は倒した状態でガラスケースに収められており、保存状態は比較的良好。但しデッキ上にあった伝馬船や付属の艪は失われている。 	帆を張った状態の写真
4. ふね遺産認定基準の該当項目(**)	【認定対象】（１）（４） 【認定基準】（５）	
5. 歴史的・工学技術的意義	幕末期に実在した千石船の、内部まで精緻に作られた再現模型であり、形状・構造の実際を知る上で貴重である。また参考資料（２）では模型からラインズを求め復原性能だけでなく帆走性能も考察しており工学的にも貴重な模型と言える。	製作者名・完成年月も明確であるケースは多くない。製作者は木造船の造船所経営者で造船の専門家であり、模型の技術史的価値を高めていると言える。
6. 参考資料・文献（本表に収まらない場合は別途添付する）	（１）池畑光尚：和船模型　寶玉丸について、横浜国立大学図書館報 （２）遠山栄一、福島哲司：弁財船寶玉丸に関する一考察、平成 3 年 3 月卒業論文（1991） （３）「日本の海運近代化展に展示」海事技術史研究会誌第 7 号（2006 年 8 月） （４）明治 20 年頃の弁財船の写真（横浜開港資料館蔵）	・弁財船「浪華丸」の復元にも役立った（文献１より） ・なお天野三吉氏製作のモデルは他にも３隻存在する（文献（１）より） ・（２）の卒業論文は宝田直之助教授が指導された

(*)　No.は学会で記載します。(**) ふね遺産認定基準の【認定対象】と【認定基準】の項目の内、該当する項目を、文頭の番号で記載して下さい（複数項目可）。